

第三部

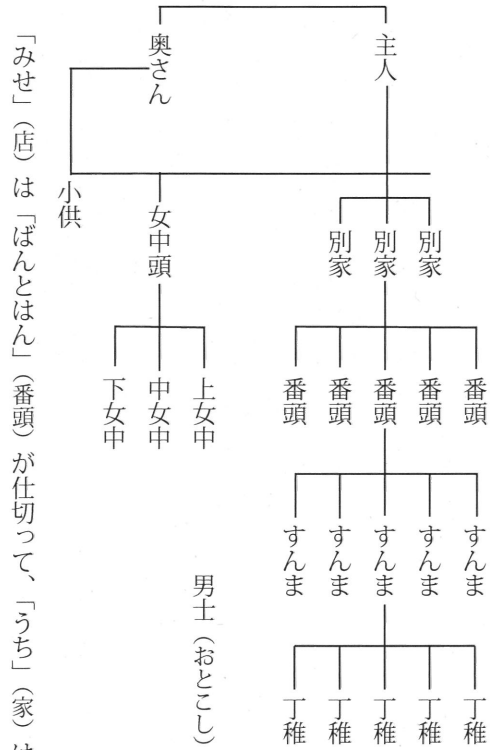
第一章 京都町家の人間関係に関わる京言葉

(一) 京都町家の人間関係

「待遇表現」は、話し手の対人意識(上下認定・親疎認定・尊卑感情・親疎感情)が言語表現の上に現れたものである。そこで、京都の町家の生活が大枠どのような人間関係のもとに営まれていたのかを、見ておく。特に本稿では、人を指し示す表現を主に検討していくため、内容的に、人間関係のあり方が大きく関わっていると言える。

西村國三郎氏『京の室町』(白川書院・一九七九年)に昭和初年の室町の個人店の人員構成が紹介されている。

個人経営では、その家長戸主が御主人(旦那さんと呼んでいる)、奥さん(配偶者)が次いで居り、その下に左図の如き順席で、所謂、店の者店の形成がなりたっていた。



「みせ」(店)は「ばんとはん」(番頭)が仕切って、「うち」(家)は「よめはん」(嫁)が仕切っていた。

被調査者の育った家庭の人員構成については、中京区生まれの被調査者女子に具体的に答えてもらった。次に表に示す。家族がお互いをどう呼びどう話題にしたかは、調査結果を後述するため、ここでは記さない。その人物が「家族の構成員」としてどう呼ばれたかを、その女子に尋ね、結果を記す。この女子の実家は「通り別家」の立場にあり、家では商いをしていない。のれん分けを許されたものが、店を構えず続けて勤めている場合、「通り別家」と言った。

(二) 京都町家の家族関係に関わる京言葉

間柄	その人物の呼び方	備考
祖父	オヤダンナサマ・オヤダンナサン オーダンナサマ・オーダンナサン	丁寧な物言いの人が「サマ」のつく形を使用した。
祖母	オーオクサマ・オーオクサン	
父	ダンナサマ・ダンナサン	
母	オクサマ・オクサン	
本人と兄弟	イトサン(女)・ボンサン(男)	
子守	モリサン	
使用人男子	オトコシサン・オトコシ	
使用人女子	ジョチュウ	呼びかける時、主人と子供は「名前+ドン」、御用聞きは「オ+名前+ドン」の形をとった。
使用人老女	バーヤサン	

日常の人間関係とそれに対応する言語表現とは、京都の人間にとって、大きな配慮を要する事柄と言える。「人称代名詞」「親族語彙」等をまとまりのあるものとして検討する立場とは別に、筆者は、次の立場に興味を持つ。

現実の人間関係に対応して、人称代名詞・人名・職名等を織り混ぜて、人々はお互いをどう呼びどう話題にしているのか。家族関係に範囲を絞ってこの点を検討する。

調査結果を表にして次に示す。

被調査者が耳にするが使用しないという語は、傍線を付して後にまとめて記した。調査においては、被調査者が育った家庭を念頭において答えてもらった。備考については、被調査者の発言内容に添削を施さない立場から、形式を統一していない。「性別」は、その語形の使用者の性別である。その「性別」が明白か或いは差が出にくい場合の表においては、この記述を省く。

一度収録したが、何度かの調査の中で「不使用」ということになった語は、消去せず、参考のために*印を付して記す。語例は、片仮名で示す。尚、長音は、原則として「ー」によって示す。

父親

【自分の父親に対して、直接呼びかける時】

語形	性別	備考
オトーサマ	女	特別。少し上品な家庭で。男子は使用しても、幼少時のみ。 この語よりは、「オトーハン」「オトツツアン」の方が一般的だった。
オトーサン	男女	
オトーチャン	男女	
オトーハン	男女	
オトツツアン	男女	
トーサン	男女	この語の使用を、小学生の時先生に注意された覚えがある。 家によっては、使用した。
オトー		

オデーサン
社寺・御所関係の人同士の会話で使用。

母親

【自分の母親に対して、直接呼びかける時】

オカーサマ オカーサン オカーチャン オカーハン オカーハン オフクロ カーチャン	女 男女 男女 男女 男女 男 男女	特別。家によっては使用した。男子は使用しても、幼少時のみ。 主に子供が使用。 男子が成長して使用。 主に子供が使用。
オカー オツカー オカン オターサン *カー *カカサン		農家で使用。 より庶民層で使用。 大阪弁の影響かもしれないという意識あり。 社寺・御所関係の家柄格式のある家で使用。男女共、使用。

【他家の人に対して、自分の母親のことを話題にする時】

オフクロ ハジャヒト	男 女	成人男子が使用。 「母者人」のつづまった形。家によっては使用した。被調査者の子供の時、天保生まれの祖母が使用していたと言う。
---------------	--------	---

ハハ ハハオヤ	男女 男女	
オカー オカー オカー オターサン		農家で使用。 農家で使用。大阪弁の影響ありか。 社寺・御所関係の家で使用。

【他家の人に対して、その人の母親のことを話題にする時】

オカーサン オコヒツツアン ハハゴ	男女 男女 男女	「御後室サン」の音訛形。当主を次代に譲った人の妻を指し示す語(語としての格は、上から、コヒツツアン・ゴインキヨサン・オバーサンの順)。被調査者の中にはこの語を知らない人もいる。上品な語。
オターサン	男女	士族・社寺・御所関係の家の人同士の会話で使用。男女共、使用。

祖父

【自分の祖父に対して、直接呼びかける時】

オジーサン オジーチャマ オジーチャン ジーチャン	男女 男女 男女 男女	
オジヤン		より庶民的な家で聞いた気がする。

ジーンヤン *オジーンハン		より庶民的な家で聞いた気がする。
------------------	--	------------------

オジー ジーン ジーンヤン ソフ	男女 男女 男女 男女	自分の年のいった「テテオヤ」のことを、こう言つとも。
---------------------------	----------------------	----------------------------

【他家の人に対して、その人の祖父のことを話題にする時】

インキョサン オジーンヤン オジーンヤマ オジーンヤン ゴインキョサン *オジーンハン *ジーンハン *ジジヤン	男女 男女 男女 男女 男女 男女 男女	この語は、もう何もしていない人という意味合いがあり、喜ばれないという。
---	--	-------------------------------------

祖母

【自分の祖母に対して、直接呼びかける時】

オバーハン		良い表現ではない。
オバーチャマ オバーチャン オババサマ ゴインキヨサン	男 女 女 男 男 女 男 女	
【他家の人に対して、その人の祖母のことを話題にする時】		
*ババ		
オバー オバーチャン ソボ バー	男 女 男 女 男 女 男 女	町家で、人によっては使用。 主に子供が使用。 町家で、人によっては使用。
【他家の人に対して、自分の祖母のことを話題にする時】		
オバー オバーハン		農家で使用。男子が使用。 相手を見下げた感じがする語。
オバーサン オバーチャマ オバーチャン バーチャマ バーチャン	男 女 男 女 男 女 男 女 男 女	

【他家の人に対して、その人の兄のことを話題にする時】

オニーサン ニーサン	男 女	
---------------	--------	--

【姉】

【自分の姉に対して、直接呼びかける時】

アネキ オネーサマ オネーサン オネーチャン ネー ネーサマ ネーサン ネーチャン	男 女 男 女 男 女 男 女 男 女	特別。上品な家で使用。男子は使用しても、幼少時のみ。 あまり使用しない。 特別。上品な家で使用。 姉を、年の順に「オオキネーサン」「チイサネーサン」と呼んだりした。
*アネサン *ネーヤチャン		あまり使用しない。 これは、女中に対しての語であろう。

【他家の人に対して、自分の姉のことを話題にする時】

アネ アネキ アネサン	男 女 男 女	
-------------------	------------------	--

オネーチャン	男女	主に子供が使用。 「ウチノアネジャヒト」のように。
*アネジャヒト		

オネーサマ	男女	
オネーサン	男女	
ネーサン	男女	

弟

【自分の弟に対して、直接に呼びかける時】		
名の呼び捨て	男	成人しても。割合にこの形で呼んでいるという。
名+チャン	男女	

【他家の人に対して、自分の弟のことを話題にする時】		
名の呼び捨て	男女	「ウチノ」オトートノ+名の呼び捨て」という形も。
オトート	男女	
オトト	男女	

【他家の人に対して、その人の弟のことを話題にする時】		
オトートサマ	男女	「サマ」を接尾辞とする場合、改まった印象を与える。
オトートサン	男女	
この表の全ての形に「オタクノ」又は「オウチノ」が上に付くことがある。		

妹

オトトゴサマ オトトゴサン オトトサマ オトトサン	男女 男女 男女 男女	
------------------------------------	----------------------	--

【自分の妹に対して、直接に呼びかける時】	名呼び捨て 名十チャン	男 男 男女	成人しても、割合にこの形で呼んでいるという。
----------------------	----------------	--------------	------------------------

【他家の人に対して、自分の妹のことを話題にする時】	名呼び捨て イモート イモト	男女 男女 男女	〔ウチノ〕イモートノ十名の呼び捨て」という形も。
---------------------------	----------------------	----------------	--------------------------

【他家の人に対して、その人の妹のことを話題にする時】	オイモトサマ オイモトサン イモートゴサマ イモートゴサン イモートサマ イモートサン	男女 男女 男女 男女 男女 男女	〔オウチノ／オタクノ〕オイモトサマノ十名十サマ／サン」という形も。この表の他の語も同じく。
----------------------------	--	----------------------------------	---

イモトゴサマ イモトゴサン イモトサマ イモトサン	男女 男女 男女 男女
------------------------------------	----------------------

夫

【自分の夫に対して、直接に呼びかける時】

アナタ アノネー アンタ オトーサン ダンサン ダンナ ダンナサマ ダンナサン ダンナハン チヨット	呼ばれることはあっても、こちらからあまり呼ばなかったという人あり。その場合「アノネー」「チヨット」等を使用。 商家で使用。芸者の用語でもあった。 商家で使用。使用する家もあるが、インテリ層は、不使用。 商家で使用。インテリ層は、不使用。 商家で使用。インテリ層は、不使用。 使用している家もあった。
---	--

【他家の人に対して、自分の夫のことを話題にする時】

姓の呼び捨て 名の呼び捨て アルジ	目上に対して使用した人もあるが、普通同等以下の聞き手に対して使用。 目上の聞き手に対して使用。言わないと言う人も。 よく使用した形。同等・目上の聞き手に対して。
-------------------------	--

妻

<p>オウチノゴシユジン オウチノゴシユジンサマ オウチノゴシユジンサン オウチノダンナサマ オウチノダンナサマ オウチノダンナハン オウチノゴシユジンサマ オウチノゴシユジンサン オウチノダンナサマ オウチノダンナサマ</p>	<p>【他家の人に対して、その人の夫のことを話題にする時】</p>	<p>*コチノヒト ヲチノアルジ ヲチノシユジン ヲチノヒト タク タクノシユジン ツレアイ ヤド</p>
<p>表の全ての場合に、「オウチノ」「オタクノ」が上に付かない形もあった。</p>	<p>言うという人もあり。</p>	<p>同等以下の聞き手に対して。 よく使用した形。同等・目上の聞き手に対して。 昔は、人に対して自分の夫のことを「主人」とは言わなかったという。 同等以下の聞き手に対して。 使用しないという人あり。</p>

【自分の妻に対して、直接に呼びかける時】

名の呼び捨て アンタ オカーサン オカーチャン オーイ オマエ	
オツカー カーチャン カカ カカー	

【他家の人に対して、自分の妻のことを話題にする時】

名の呼び捨て ウチノ十名 ウチノ ウチノカナイ ウチノヤツ オンナドモ カナイ サイ ニヨーボー	妻と女中との総称。 比較的改まった物言い。よく使用。
ウチノワイフ オツカー カーチャン カカ	ハイカラな物言い。 より庶民的な家の人が使用。 より庶民的な家の人が使用。 より庶民的な家の人が使用。

【他家の人に対して、その人の妻のことを話題にする時】

<p>オノチゾエ ゴサイサン</p>	<p>次の語は「後妻」を意味し、話題にのみ使用する。</p>
<p>* ゴナイギ ウチカタ ウラカタサン オイエサン オウチカタ オウチサマ オウチサン オウチノオウチカタ オウラサン オカミサン オクガタ オクサン オナイギ オナイギサン ゴシンゾ ゴシンゾサン ゴリヨ一サン ゴリヨ一ニンサン サイクン ダイコクサン ナイギ</p>	<p>身分のある家の人に対して。 寺の人に対して。 大きなお店(たな)の人に対して。「家ツキノオバサン」のことも。 身分のある家の人に対して。 富家の主婦のことで、呼びかけにも話題にも使用。 富家の主婦のことで、呼びかけにも話題にも使用。 第三者の妻を「アソコノオウチカタ」とも。 寺の人に対して。 八百屋の人等に対して。 かなり身分のある人に対して。呼びかけに使用しない。 身分のある家の人に対して。 身分のある家の人に対して。 身分のある家の人に対して。 呼びかけにも使用。 商売関係の少し大きな家の人に対して。 男子が比較的親しい人に対して、よく使用。 寺の人に対して。良い言葉とは言えないので、通常、第三者的に噂する時に使用する。</p>

ノチゾエ

息子

【自分の息子に対して直接呼びかける時】

名の呼び捨て ボク ボクチャン	父母共に使用。 子供が年少の場合。 子供が年少の場合。
-----------------------	-----------------------------------

【他家の人に対して、自分の息子のことを話題にする時】

アカンボー ウチノオーボン ウチノナカボン ウチノコボン ウチノボーズ セガレ ムスコ ヤヤ ヤヤコ *アカチャン *チノミゴ	子供が乳飲み子の時。あまり使用しない。 長男のこと。 次男のこと。 末の息子のこと。 父母共に使用。 子供が乳飲み子の場合。 子供が乳飲み子の場合。
---	--

【他家の人に対して、その人の息子のことを話題にする時】

子供が乳飲み子の場合。
子供の性別を問わない。「子供さん」の意。

- アカチャン
- オコタチ
- オボンサン
- ゴシソク
- ゴシソクサン
- ゴレイソク
- ボ―
- ボ―ヤチャン
- ボツチャン
- ボン
- ボンサン
- ボンチャン
- ボンボン
- ムスコサン
- ヤヤサン

子供が乳飲み子の場合。

娘

【自分の娘に対して、直接に呼びかける時】

名の呼び捨て

父母共に使用する。

【他家の人に対して、自分の娘のことを話題にする時】

<p>名の呼び捨て ウチノ十名の呼び捨て アカンボー ムスメ ヤヤ ヤヤコ</p>	<p>子供が乳飲み子の場合。 父母共に使用。 子供が乳飲み子の場合。 子供が乳飲み子の場合。</p>
<p>*アカチャン *チノミゴ</p>	

【他家の人に対して、その人の娘のことを話題にする時】

<p>アカチャン イトサン オジョーサマ オジョーサン オコタチ コイサン ゴレージョー ジョーサン トーサン ムスメサン レージョー ヤヤサン</p>	<p>子供が乳飲み子の場合。あまり使用しない。 名又は愛称を前につけて「愛イトサン」「ナオイトサン」等と言うことも。聞き手が目上の場合。 あまり使用しない。直接その娘に呼びかける場合にも。 直接その娘に呼びかける場合にも。 子供の性別を問わない。 「コイトサン」のこと。末娘を指す語。女中が主人に対して使用する等、聞き手が目上の場合。 改まった物言い。 子供が乳飲み子の場合。</p>
--	--

(三) 京都町家の雇用関係に関わる京言葉

京都の町家における人間関係として、家人と使用人との関係を取り上げる。人間関係の段階づけが非常に厳しく、その精神が言語表現の上にも確として現われる社会にあつて、雇用関係に関わる人を指し示す語の様相は、興味深い。人間関係を中心に据えて、第二章の場合と同じように、語の種類分けにこだわらず人を指し示す語をできる限り挙げていくこととする。

(1) 使用人が家人を指し示す語

この場合、直接呼びかける際の語と話題にする際の語とがほぼ同じである。

【主人に対して】

人を指し示す語	備考
オヤカタ カシラ ダンサン ダンナサン ダンナハン	大工・左官等の職人が使用。 とび職・大工・左官等の職人が使用。 花街の用語でもあるが、家によって使用。 この語が一般的。 良い言葉ではないが、女中がよく使用。

【主人の妻に対して】

<p>オイエサン オエサン オカミサン オクサマ オクサン カミサン ゴリョーニンサン</p>	<p>格の高い家で。 格の高い家で。 他家の人に話題にする場合には、「オカミ」「ウチノカミサン」とも。商家で。</p>
<p>【主人の親に対して】 ゴインキヨサマ ゴインキヨサン オーダンナサマ オーダンナサン オーオクサマ オーオクサン *ゴインキヨハン</p>	<p>父母のどちらのことも。 父母のどちらのことも。 父。 父。 母。 母。 「ぼけた人」の意になることがあり、いやがられるとも。</p>
<p>【主人の息子に対して】 オーオボンチャン ナカボンチャン コボンチャン ボー ボーヤ</p>	<p>長男。 次男。 末息子。</p>

ボツチャマ ボツチャン ボン ボンサン ワカサマ ワカサマ ワカサン ワカダンナサン	あととり息子。 あととり息子。 あととり息子。大人になって、家業に関わる段階で。
---	--

イトサン オジヨ一サマ オジヨ一サン オジヨ一チャン ト一サン ジヨ一サン	娘が子供の場合。
--	----------

(2) 家人が使用人を指し示す語

【他家の人に対して、自分の家の使用人のことを話題にする時】 オサンドン オナゴ オナゴシ	飯炊き女・下女のこと。呼びかけ語にならない。 女中に同じ。 女中に同じ。
---	--

<p>オンバドン オンバハン コドモ ジーヤ ジョチュー デッチ バーヤ バントー ヤトイド ヤトイババ</p>	<p>「オンバハン」「バーヤ」に同じ。子供の多い家で、子供に乳をやったり世話をしたりする。女中より立場が上。 商家における小僧のこと。呼びかけ語にならない。呼びかけは、「オイ」「コレ」が普通。 呼びかけは、「名+ドン」「名+ヤ」。名は、当人の本名に関わりなく、家によっては勝手に定められていた。 呼びかけは、「名+ドン」。 臨時の雑用に雇う使用人。 臨時の雑用に雇う老女。洗濯等をする。日雇い。呼びかけ語にならない。呼びかける場合は、「名+サン」「名+ハン」。</p>
--	--

これ以外に「寸間」^{スマ}が話題に出る筈であるが、被調査者の家の状況としては、データに出なかった。

【他家の人に対して、その人の家の使用人を指し示す語】

<p>オテツダイサン オナゴシサン オナゴツサン</p>	<p>「ヤトイドサン」「ヤトイドハン」と同じ意で、だいたい年を取った男女で、常雇いでない人。 「オナゴツサン」「ジョチューサン」と同じ。ただし、「オナゴシサン」の方が「ジョチューサン」よりも呼び方の位置づけが低い。</p>
--------------------------------------	---

<p>オンパド コゾーサン ジーヤサン ジーヤハン ジヨチユーサン スンマサン スンマハン テッタイサン デッチサン バントーサン バントサン バントハン ヤトイドサン ヤトイドハン</p>	<p>乳母。 「ジイヤハン」と同じで、割り木を切る等の荒仕事をする人。 「スンマハン」に同じで、丁稚と番頭の間位置する人。 家の常雇いではなく、大工が仕事に伴ってくるような人。 「コゾーサン」と同じ。 語の転用として、押し売り予防のために玄関に出しておく男物の下駄のことを、「バントーサン」と言う。 語の転用として、「コレ、チョットバントハンニナッテマス」とは、品物が古くなっていることを言う。</p>
<p>*ボンサン</p>	<p>「坊サン」「息子サン」「丁稚」の意は、同形の「ボンサン」でも、アクセントで区別がつく。</p>

使用人同士の上下関係も厳しく、たとえば、番頭は寸間を普通「名の呼び捨て」で呼ぶ。親しみをこめた場合には、その人間関係にふさわしい接辞を付けて呼ぶ。以上である。

ここで、人間関係における「家格」について付記しておく。「言葉を聞けば、その方の家柄がわかります」と、被調査者は言う。話し手と聞き手との人間関係に問題を絞るな

らば、それは、次のように分析できる。

- ① 語形を間違えずに、人を指し示す語を使用しうるか。
 - ② 話し手が自分及びその家族・使用人を指し示すのに、話し手の家格にふさわしい語を使用しうるか。
 - ③ 話し手が聞き手・他家の第三者及びその家族・使用人を指し示すのに、その人の家格にふさわしい語を使用しうるか。
- ①は、言葉の知識そのものが問題になる場合である。②③は、人間関係に対応した表現の使い分けの能力が問題になる場合である。②③について、この能力の有無が即家庭の躰のあり方と結びつくという形で捉えられる。

先の発言の根底には、家柄のよい家においては言葉の躰が行き届いて然るべきだ、という考えが存する。先述したが、家庭においては言葉の躰が躰のうちでも重要な位置を占めていたという。中でも人を指し示す語の使い分けについて、厳しく躰けられたという。

本稿(一)～(三)のデータを検討して、まず気付くのは、総体として、語の種類が多いことである。その要因を検討する。

- ① 被調査者間にも、微妙に家格の差が存する。そのことが、家族同士の使用語のデータの範囲を広げている。
- ② 被調査者の家格がまったく同一であると仮定しても、他家の人に対する表現において、社会が保持する家格の差異が使用語のデータの範囲を広げている。

③ 語の種類は、ほぼ形の似た音訛形の並存によって多くなる場合がある。又、別語の並存によって多くなる場合もある。後者として特徴的なのは、一家の家長とその妻を指し示す語の場合である。特に家長の妻の場合、語が即家格と結びついて多様に使い分けられている。このことは、京都の町家の人間関係に関わる表現を考察する際に、特筆すべきことと思われる。